

## 超短編⑩

### 「贅沢な国内旅行」(20020805)

「金と時間がある人は、こんな贅沢な旅行もできるんだ」と誰もが思うに違いない、そんな旅行を紹介しましょう。

もつとも、紹介されても自分には縁がないような、それほど贅沢な旅行ですが。

ツアー名) お駕籠(かご)に乗って行く、東海道五十三次 20泊21日の旅  
主 催) 21世紀国際プロレスリング株式会社 旅行企画部  
料 金) 1人 5,250,000円(税込)  
出 発 日) 2月と12月を除く偶数月の初日  
行 程) 東京日本橋から旧東海道を駕籠に乗って京都まで

その驚くべき数々の特徴を列举します。きっと料金にも納得がいくと思います。

#### 専用の駕籠

乗り物は駕籠です。

ただし、1日8時間、しかも3週間土曜日も日曜日も関係なく乗り続ける駕籠なので、普通の駕籠ではありません。

横になって、足も伸ばせる広々としたスペース。完全防水の完全オーダーメイドです。一流の材料を使って、一流の職人が真心込めて作ります。製作に6ヶ月かかります。したがって、出発は予約してから最低でも6ヶ月間待たされることとなります。

この駕籠は旅行が終わるとお持ち帰りができます。皆例外なくお持ち帰りになられます。お庭や床の間に飾ったり、中には「俺が死んだら、このお駕籠に乗せて火葬場まで皆で運んでくれ」というわがままな遺言を遺して亡くなられた方もいたそうです。

旅行者お1人に、付き人は6人

駕籠持ちが4名つきます。

駕籠は前1名、後1名、計2名で持ちますが、1時間おきに交代しながら、お昼とおやつの時間以外はノンストップで歩き続けます。

駕籠持ちは21世紀国際プロレスリング(以後21プロレスと略します)の若手レスラーです。21プロレスとしては、若手レスラーの訓練を兼ねているというわけです。

そして、もう1人は「旅の語部(かたりべ)」です。  
旅の間ずっと、駕籠の外を歩きながら、駕籠の中の旅行者に聞こえる大きな声でその土地についての特徴とか、歴史とか、風物詩とか、所縁のある人の話とか、興味のあるお話を語り続けます。

しかも、毎晩夕食後は「翌日の見どころ」の説明があります。ようするに予習みたいなものです。

この「旅の語部」は、国土交通省の認める「国内旅行ガイドA級ライセンス」保持者です。

最後の1人は最高の腕を持つ料理人です。歩き続けるのは旧街道なので、中にはかつての繁栄の面影すらない場所もたくさんあります。したがって、旅行者の宿泊する宿は、基本的には歴史と風格のある国内最高級の旅館ばかりですが、そういった、旅館のない場所でも宿を取るときに、この料理人が腕を振ります。その土地その土地の、その時に味わえる最高級の食材を最高の料理に仕立てあげます。もちろん、昼食は毎日、この最高の料理人作った最高の料理が食べられます。

大井川はレスラーの肩に乗って渡る

静岡県の大井川は江戸時代には、幕府の命令によって橋を架けることを禁じられてました。したがって、川の中を歩いて渡るしかなかったのです。

このツアーでも、当時の苦勞を肌で感じてもらおうと、わざわざ、わざと橋を渡りません。と言って、旅行者に川を歩かせるような危険なことをさせるわけにもいきません。

旅行者は21プロレスの若手レスラーの肩の上に乗る、悠々と川を渡ることになります。あつ！言い忘れてました。このツアーの旅行者は「体重85キログラム未満に限る」という体重制限があります。

「お駕籠に乗って行く、東海道五十三次」  
いかがですか。

超短編シリーズはフィクションです。念のため